

## 第7回「社会と情報に関するシンポジウム」1997

社会情報学部研究委員会 勝井 義雄

6年前に社会情報学部創立を記念して開催した「社会と情報に関するシンポジウム」は、その後、夏休み直前の年中行事として定着して行われるようになり、このたび第7回シンポジウムが7月30～31日、本学G館5階特別会議室において開催された。

今回のシンポジウムでは、初日、まず文部省統計数理研究所・林知己夫名誉教授が国民性の国際比較にかんする長年の研究成果を『社会調査と数量化——国民性研究とデータの科学——』と題して詳述され、日本人の特色をあきらかにされた。ついで、北海道大学大学院工学研究科・田中讓教授が独自に開発された IntelligentPad の研究成果を紹介しながら『ミームメディアとミームプール——ネットワーク時代の電子メディア技術——』と題して、あらゆる知的資源を流通・交換し、再利用・再編集できるシステムを開発して文化の発展に資するという夢を語られた。さらに、名古屋大学情報文化学部・貝沼洵教授が『社会理論の再構成と情報社会——非メディア論的アプローチの可能性——』と題し、メディアの特性から文化、人間、社会を論ずる「メディア論的アプローチ」ともいべき潮流が支配的であることに批判的に注目しつつ、情報社会における社会理論の再構成について私見をのべられた。これらの講演をめぐって講演者と学内外の参加者約40名との間に活発な質疑・応答が行われ、討論や情報交換はG館レストラン文泉での懇親会までつづいた。

翌日、三人の先生方の補足講演と総括討論が行われた。とくに「社会情報学」という固有の学問領域とその方法をめぐって討論が弾み、創立1年を迎えた日本社会情報学会会長の田中一先生からはこの新しい学問の対象として「社会情報過程」があげられた。最後に本学社会情報学部の早田和弥教授により『サマリートーク』がなされ、二日間のシンポジウムを終了した。

新築のG館で行われた今回のシンポジウムは、本学創立五十周年に相応しい行事として大変有意義なものであった。このような成果を収め得たのは、ご多用中にもかかわらず遠路本学にご来駕たまわり、長年の研究成果を講演された上記の三先生をはじめ、学内外の方々のシンポジウムに対する格別な熱意とご支援によるものである。このシンポジウムは日本社会情報学会、北海道社会学会ならびに情報処理学会北海道支部からご後援をいただいた。また、シンポジウムの準備・運営には本学の多くの方々のご協力を得た。報告にあたり以上の各位に厚く謝意を表す。

### ■プログラム内容

第1日目

挨拶

札幌学院大学社会情報学部長 狩野 陽

講演1 『社会調査と数量化——国民性研究とデータの科学——』

文部省統計数理研究所名誉教授 林知己夫

講演2 『ミームメディアとミームプール——ネットワーク時代の電子メディア技術——』

北海道大学大学院工学研究科教授 田中 讓

講演3 『社会理論の再構成と情報社会——非メディア論的アプローチの可能性——』

名古屋大学情報文化学部教授 貝沼 洵  
第2日目  
補足報告および総合討論  
林知己夫  
田中 讓  
貝沼 洵

『サマリートーク』  
札幌学院大学社会情報学部教授 早田和弥  
司会・記録 札幌学院大学社会情報学部研究委員会  
勝井義雄 金 明哲 早田和弥  
井上芳保 是永 論